

平成 25 年度 第 4 回 河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録

【日時】平成 26 年 1 月 17 日（火）午後 5 時 30 分～午後 8 時 20 分

【場所】市役所 5 階 501 会議室

【出席者】

〈河内長野市文化振興計画推進委員会委員〉

末延 國康・浅尾 広良・荒川 透・今村 尚美・来村 多加史・中道 厚子・長山 公一・

中脇 健児・寶楽 陸寛・水落 学・安福 迪子

〈事務局（河内長野市教育委員会事務局ふるさと文化課）〉

大江・井上・東畑

【配布資料】

- ・平成 25 年度 第 4 回 河内長野市文化振興計画推進委員会 次第
- ・資料 1 数字で見る・知る・分かる 市の姿
- ・資料 2 河内長野市の人口動態の分析
- ・資料 3 平成 25 年度 第 3 回 河内長野市文化振興計画推進委員会 議事録
- ・資料 4 第 4 次総合計画関係資料
- ・評価指標に係る資料 他

以上

末延委員長

文化事業に係る評価軸をまとめていくために、前回ラブリーホールでソフト面も含めた説明を受けた。今日は3月の会議に向けて具体的にまとめていきたいと思う。それでは評価軸について何か提案がありますか。

宝楽委員

資料を持ってきました。

末延委員長

よろしくお願いします。

宝楽委員

具体的なことまで書いていますが、評価軸を考える資料として提案させていただきます。

まず、「文化振興策の方向と具体策について具体的な数値的評価を行う」ことをした方がいいと思い、他市の文化振興計画の推進状況のチェックを目的にインターネットで検索したが、市民アンケートだけで終わっていることが多い。

そうではなく、方針①河内長野市の「どこが優れていてどこが足りていないかをできるだけ数字で明確に」する方が今後の文化振興計画を改訂する際の参考になると思う。

方針②として、「他市の先行事例と比較し、次の文化振興施策の検討のベースになる総括」が行える情報収集を行う。

方針③として、「各指標をマトリックスもしくはレーダーチャート化し、河内長野のポジションと今後目指すポジションを明確に」していく。

方針④として、「今回定める成果指標を今後の目標設定にも活かせる」ものができたらということで今日は提案したいと思います。

私はNPOで市民と行政の協働環境調査を行っているが、その結果がA3の紙です。具体的に0点から6点の間でまず自己評価し、後は第三者が客観的に評価し点数化することにより河内長野が他市と比較して優れている点いない点が見えてくる。このようなものをつくる。レーダーチャートはまだ集計が終わってないので例を書いているが、河内長野市はしくみ化のプロセスが弱いとかそういうことがわかるようなレーダーチャートができたら面白いと思う。さらに、総括表にあるように、その数字から平均点や南大阪などと比較し傾向分析ができれば、かなり詳細な文化の調査や評価ができると思う。このような評価シートを委員会で作成できないかと思い提案させてもらった。では、具体的にどう点数化するかがホッチキス止めした資料になる。まず、「2、各指標について」ですが、P1の下の部分の図は、ポジショニングマップもしくは戦略分布図というもので、縦軸と横軸で考え方を切り分けている。横軸は市場性の強い弱いを、縦軸は上の部分が公共、共益、地域性が強い、自治力があることを示し、下の部分が個人的な利益になるもの、自己実現になるものの評価軸です。最終的に、各市町村が行っている事業や特に優れた先進事例をそれぞれこのマップ上に分類し評価できればと思っている。例えば、市場性が強く公の領域が強い「政府の欠陥」という部分は、地域特性にマッチした事業として、河内長野市でいえば

地域のフェスティバル等があげられるように、市町村ごとに分析できたらいいと思う。特に私が大事と思っているのは、市場性が弱くて個人の領域である左下の部分で、アウトリーチ事業が入るかもしれない。一方、学校教育という視点で考えるときには営利企業が行わない領域だが行政が取り組むべき左上の部分、ここに力を入れていくべきである等、実施している事業内容をこれで明確に分類し最終的に各市町村と比較したものを作る。レーダーチャートはP2以降で考えている。(1)文化に参加する等とあるが、これは以前、河内長野市の文化振興施策で5つの柱をたてられていた。5つの柱のなかに書かれている項目それぞれを具体的に点数化してみたらどうかと考えている。例えば「文化施設を活用する」という項目があるが、そのなかに具体策として「既存公共施設の文化的活用を」と目標が書いてあるので何点にしようというのをこの委員会で具体的に議論できたら、河内長野市が定めた文化振興計画から見る河内長野市の実態、この指標にあてはめて河内長野市の文化振興施策から見る他市の出来ていること出来ていないことを客観的に分析できると思う。47都道府県全部するのではなくて、先進的な自治体や、南の河内長野、北の伊丹といわれるならば伊丹と比較してみるとか、例えば富田林や羽曳野など人口規模に近い11万人都市の大阪の市町村とこの指標で評価してみたら見えてくるものがあるのではないかと考えた。参考に是非生かしていただけたらと思い提案資料を持ってきました。

末延委員長

ありがとうございます。

今、目を通していただいたと思いますが、評価軸の1つの目安として提言されている。この評価軸で河内長野市を見ていくのも、ひとつの方法かと思うが、いかがですか。

中脇委員

2枚目以降の項目は全て既に行政が設定している項目ですか。

宝楽委員

左側の項目は、そうです。一回目の会議の際に配布された資料に出ている項目で、文化振興計画にも出ている項目と同じです。実際、もう一度眺めてみて文化振興の在り方が網羅されている項目だったので使用した。

来村委員

1枚目の資料の4分類は後の項目とは対応していますか。

宝楽委員

明確には対応していないと思う。しかし具体的な事業や施策を一覧できるものがあつたほうがいいと思い、全体総括としてこれを最初に持ってきた。文化振興計画では、私たちがつくる文化をビオトープとっている。ビオトープがどういうものかこれを見てもらえばわかると思う。

また、5つの柱は文化振興計画に位置付けられています。ただし、前回、行政側が独自に判断した資料であれば漏れが出てくると思う。文化のセクションでしか見えてない部分もあり、もう少し客観的にみる必要があると思う。

来村委員

確認しておきたいが、評価についての対象は、河内長野市の文化にかかわる事業の全般についての汎用性のあるものですか。前回ラブリーホールを見学し、ラブリーホールを評価するようにも考えられるがそうではないのですね。

東畑主査

まずラブリーホールの事業を評価軸にあてはめて評価さしていただきたいというのが一つあります。一方、評価軸を作っていたときには最終的には市の全体の事業に対応できるかと考えています。

宝楽委員

評価対象によっては評価軸の在り方が変わると思う。

来村委員

どうアプローチするか、ラブリーホールをモデルケースとしてそこから広げるのか、最初から汎用性のある全般的なもので、そのうちの1つとしてラブリーホールを位置付けるのか、その議論が最初に必要と思う。私は、後者と思っていた。そこにはラブリーホールにないものが結構入っている。

宝楽委員

私も後者の視点、全般で考えていました。ラブリーホールが河内長野市の文化振興計画の内容すべての拠点ではないと思う。特に市民文化の面が抜け落ちてしまうのではないかなと思う。

中脇委員

現状はどうか。行政の中で担当課は？

東畑主査

課としてはふるさと文化課です。

中脇委員

ふるさと文化課が対象としている事業はラブリーホール以外にもあるのですか？

東畑主査

あります。

宝楽委員

たとえば、総合計画の73ページ、施策の体系としては市民文化に位置付けられており、「文化芸術創造環境をつくる」「生活文化を育む」「歴史的文化遺産を保存・活用する」という流れで施策はできている。ふるさと文化課が担当している事業として、ここを見ないといけないと思う。

来村委員

ラブリーホールはどちらかというと1番目の項目になると思う。

井上課長

ふるさと文化課が担当しているのが文化、国際、文化財です。

来村委員

国際というのは、どこに位置づけられるのか。

井上課長

河内長野市国際交流協会という団体があり、生涯学習の施設である市民交流センターで担っている。その業務をふるさと文化課が所管しています。

来村委員

国際は具体的には観光みたいなものも含んでいるのか。

井上課長

国際交流協会は姉妹都市提携しているカーメル市との交流がこれまで中心になってきたが、昨今の流れでは多文化共生で市の在留外国人が暮らしやすいものをつくりあげていこうというスタンスに変わってきています。ふるさと文化課でも多文化共生プランを策定しているところです。

来村委員

この会議では国際までは考えなくてよろしいのですか。

井上課長

はい。

来村委員

それでは73ページのところで完結する。しかし、ラブリーホールだけの問題ではないと思う。その辺、皆で確認をした方がいいと思う。

末延委員長

では73ページの市民文化の項目の1・2の項目についての評価軸を作り、考えるという方向でよろしいですか。

宝楽委員

総合計画は9～10年前にできたもので、同時期に文化振興計画がスタートしており、同じことを言っているが施策の分類の仕方や具体的な事業に落とし込むときの分類の仕方により、表現に差が生じてくる。本来は総合計画の1番目と2番目の項目とそれぞれに関わってくるものは3番目の項目も入れた方がいいと思うが、今私たちが議論すべき文化振興計画の中の施策の5つの柱と3つの目標が、少し表現が違うので、どちらを軸に考えるのかということと同時に話し合っておいた方がよい。私個人の意見だが、文化振興計画は総合計画の下に位置付けられているものなので、総合計画に沿ったものをある程度評価しておかないと、その時々の方長の意見などや潮流によって流れてしまうものになってしまうので不安である。そこも一緒に考えたい。

担当課としてはどうみているのか。

井上課長

総合計画と文化振興計画については、宝楽さんが言ったように同じ時期にできており、改訂も同じ時期になります。文化振興計画のなかで検討されていたものが表現は違うが総合計画へ反映されたという形になっている。順序としては総合計画があり、その下に文化振興計画があるというのは、宝楽さんの言うとおりで。ただ、同時期に作っているのもので、文化振興計画で議論されていたものを、ある程度は盛り込んでいったという形にはなっ

いる。ただ表現が変わっていています。

宝楽委員

今、河内長野市は「くろまる」を重視して公民館事業や社会教育事業を設計しているが、それは今の市長の思い入れが強い。しかし、10年後の市長はどうかと考えたときに、文化のあり方があちらこちらに行くと、市民が置いてけぼりになるのではないかと思うので、総合計画に準拠した方がいいのかと思う。一方で現状の施策が文化振興計画で動いているので、やはり5つの柱で見たほうがいいのか僕自身悩みながら話している。

中脇委員

総合計画は改訂されるのでしょうか。

宝楽委員

来年度、議論され、再来年度に改訂される。

中脇委員

今考えている文化振興の施策も同じタイミングで変わるのに、なぜ、5次の総合計画の案が見えていないのか。

宝楽委員

今は評価軸、過去を評価する。改訂はもう少し先の話ですよ？

井上課長

評価することによって次の段階が見えてくるだろうということです。

末延委員長

その評価軸で、目安を作るといことですね。

来村委員

既存の文化事業を振り返ることですね。それには、まずどんなものがあるのかというのを考えた方がいいと思う。

最初に4つの項目に仕分けていただいた資料の中に、これまでの文化事業が含まれているのか。

宝楽委員

いえ、これは私の個人的な好き嫌いがかなり入っているのもっとあります。

来村委員

既存のものをすべて評価できるようなものにするためには、既存のものは何があるのか考える必要があると思う。

宝楽委員

その洗い出しも当然必要です。

末延委員長

今日は評価軸を皆さんに考えていただくが、全体で議論するのも大事であるが、今から少し時間を取って、ある程度ご意見を集約するためにグループになり、どういう評価軸ができるかをまず検討してもらい、意見をあげていきながらまとめていきたいと思う。区分けは皆さんそれぞれ専門があるので、重ならないようにした。ご意見があればまた言って

ください。4人ぐらいのグループで議論した方がお互い意見が出やすいと思うので、お名前を敬称略で言います。

グループ1は、浅尾・宝楽・今村・栗本（欠席）各委員

グループ2は、来村・安福・長山・荒川各委員

グループ3は、中道・中脇・水落・末延各委員です。

（グループにわかれて、評価軸について話し合う）

末延委員長

それでは、それぞれのグループで話し合ってもらったと思うが次回が、評価軸の最後の会議になる。今日話し合ってもらったことをある程度進めながらまとめていくことになるので宜しくお願いします。

各グループ、一言ずつお願いします。

荒川委員

私たちのグループは、8つの軸を作った。①収益に関して②稼働率に関して③どのくらい満足させたか④認知をどの程度行っているか⑤教育にどれだけ貢献できているか⑥福祉にどれくらい貢献できているか⑦理念をどの程度持っているか⑧持続性があるかどうか、持続性のある事業をやっているかどうかを軸に考えた。

宝楽委員

私たちのグループは、3つの大きな目標に、具体的に出てきた30の項目をキーワード化したうえで、それを基に、事業の5つの柱の中の具体的な事業の項目を、一つ一つ目標とかかかっているキーワードが達成されているかをチェックした方がいいのではないかと考えた。出来ている、出来ていない、△、○等、評価してはどうか。

この調査結果において具体化されていくべき視点としては、まず、高齢者の活力がある。河内長野は高齢者化社会になっていくため、医療費抑制や外に出てもらうことで、高齢者の活力がでるようになる。次に、生涯学習領域として、生涯学習計画や文化振興計画の関連性も考えていく。さらに、地域特性として地域の伝承文化の継承や、稼働率、収益などの数だけでない評価や、守っていくべきものは守っていく等、そのようなものが視点として必要ではないかという意見が出た。

中脇委員

こちらの班は、基本的にはレーダー的分析でいいと思うが、目指すビジョンとして点から線、線から面と広がりをもたせたり、長年実施しているものを循環するとか停滞させない仕組みづくりができていくかどうかを最終的にめざして、新規事業・中期事業・長期事業のそれぞれの段階ごとに評価できるものがあるのではということになった。

新規事業は点なので基本的には、まず、河内長野らしさに関連して自然・歴史・芸術という3本柱について、次に収益や補助金、出資率について、さらに情報発信に関して、この3点が入っていれば点として、新規事業としては十分と思われる。

次に、3年以上のものについては、線の時代であるので、市民主体の人づくり系、主体性を育む人づくり系か連携系であり、学校、団体、地域など様々あるが、まず、線になりましょう。

5～8年位の長期の項目は面の時代であるので、人づくり系と連携もしているかどうか評価し、20年位実施している事業については循環できる仕組みができてなければ切り込んでいく。

全ての事業を1つの軸で判断するのは難しいので、段階に分けて考える。最終的にそのようにすれば、全体としてどこが満たされていないのかということがわかり、例えば、次の10年は特にこの点を全体としてはやりましょうというように取り組んでいく。

末延委員長

まだ途中ですが次回につなげてということで今日はこの形で終わりたいと思う。

東畑主査

ご審議有難うございました。次回の会議は3月25日に火曜日午前10時から市役所7階701の会議室で行いたいと思いますので宜しくお願い致します。

委員の方から何かPR等ございませんでしょうか？それでは本日の会議を閉会させていただきます。有難うございました。